

日本語能力試験新出題基準準拠

· 目黒真実◎編著 ·

日本語

能力测试 精选问题集

1

级

读解・语法



华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

日本語能力試験新出題基準準拠

·目黒真実◎編著·

H36/233

:1(1)

2008

日本語 能力测试 精选问题集

1

读解·语法
级



华东理工大学出版社
EAST CHINA UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

日语能力测试精选问题集 1 级读解·语法/(日)目黑真实编著.

—上海:华东理工大学出版社,2008.5

ISBN 978-7-5628-2179-3

I. 日... II. 目黑... III. ①日语—词汇—水平考试—习题

②日语—听说教学—水平考试—习题 IV. H369.6

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 203365 号

本书由(台湾)尚昂文化事业国际有限公司授权华东理工大学出版社
在中国大陆地区以简体字出版发行。

著作权合同登记号:图字:09-2007-624

日语能力测试精选问题集 1 级读解·语法

.....

编 著/目黑真实

策划编辑/王耀峰

责任编辑/李清奇

责任校对/李 晔

封面设计/大象设计 张 欣

出版发行/华东理工大学出版社

地 址:上海市梅陇路 130 号,200237

电 话:(021) 64250306 (营销部)

(021) 64251904 (编辑室)

传 真:(021) 64252707

网 址:www.hdlgpress.com.cn

印 刷/上海崇明裕安印刷厂

开 本/787mm×1092mm 1/16

印 张/13.25

字 数/313 千字

版 次/2008 年 5 月第 1 版

印 次/2008 年 5 月第 1 次

印 数/1-8050 册

书 号/ISBN 978-7-5628-2179-3/H·678

定 价/21.50 元

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

前 書 き

この本は、日本語能力試験1級を受験しようと考えている学生を対象に編集されています。読解と文法、二部分からなっています。

一、読解部分

この本の第一部分として、各回が長文読解一題と短文読解二題、解説と解答に分かれています。12回分ありますから、能力試験直前の読解トレーニングにお使いください。

さて、読解力を高めるにはどうしたらいいか、といった質問をよく受けます。試験では、先ず速く正確に読む力が問われますが、この速読力というのは、いろいろな種類の文章を、できるだけたくさん読むことを通してしか養うことはできません。速読力というのは読書量に比例するのです。

しかし、読解問題の解き方に関しては、ミスを少なくするために、いくつかアドバイスしたいことがあります。それが以下の三点です。

- 1 わからない語にぶつかっても、止まらず、続けて読み進める。
- 2 解答は必ず本文の中にあるので、本文の中から探す。
- 3 解答の選択は消去法で行う。

読解問題の本文中には、いくつかわからない語があるのが普通です。しかし、全体を読めば解答できる場合がほとんどなので、わからない語のところで立ち止まって時間を浪費しないことです。また、解答の選択に際して、自分の意見や主観が入らないようにすることが大切です。解答は本文の中にありますから、本文に書かれていないことは、原則として選択しないようにしましょう。

また、ミスを少なくするために、正しいものを選ぶのではなく、間違っているか、本文で触れられていない内容を含むような選択肢を、一つ一つ消していく消去法を勧めます。問題作成者は、正答(○)のほかに、紛らわしい選択肢(△)を入れて問題を難しくしようとしますから、正しいものを選ぼうとすると、この△に飛びついてしまう恐れがあるのです。

では、読解トレーニングを始めましょう。読解問題は、一度にたくさんしても効果がありませんから、一日一回で進んでください。

二、文法部分

この部分の中で、一部では助詞文型を、二部では助動詞文型を機能別に取り上げてありますが、一部・二部では基本練習、三部の「総合問題」で総仕上げとなっています。集中すれば一ヶ月で終わるでしょう。

さて、一級の出題には、かなりの程度(約40%)2級の文型項目が含まれますから、三部の「総合問題」では、2級出題基準のものを復習してから、1級出題基準のものに移るようにしてあります。資料でも国際交流基金が出題基準として取り上げている2級文

型項目を転載してありますので、まず2級の復習から始めた方がいいでしょう。

なお、文法問題を解くには、以下の三点が大切になります。

- 1 単文の文脈を掴む。
- 2 文型の接続の形に注意する。
- 3 文型の意味と機能を理解する。

特に試験の時は、各文型の名詞・形容動詞との接続の形に注意してください。この問題集では、名詞・形容動詞の時の接続に注目して、

普<ナ形ー な/Nー の>

普<ナ形ー X/Nー X>

普<ナ形ー な/Nー X>

のように記載してあります。また、[ます][ない]は<ます形><ない形>を作って、<ます><ない>を取るという符号です。

では、みなさん、この本を十分に活用してください。

目黒真実

前 言

本书是为了方便参加日语能力 1 级测试的考生而编写的,由读解和语法两个部分组成。

一、读解部分

读解部分为书中的第一部分,共分为 12 回,每回分为长篇读解文一题、短篇读解文两题、解说以及解答部分。

我们经常会提出“如何才能提高读解能力呢?”这样的问题。在考试中,首先需要的便是迅速而正确的读解能力。但是速读能力,与阅读量成正比,只有通过阅读大量各类文章才能够养成。

关于读解的读解方法,以下三点,可以帮助大家减少阅读的失误:

1. 即使碰到不懂的单词,也不要停下来,继续阅读下去。
2. 答案一定存在于原文之中,因而请于原文中寻找答案。
3. 用排除法选择答案。

在读解文章中,出现几个不懂的单词是很正常的。但若将文章整体读完,一般是可以解答问题的,因而请不要把时间浪费在陌生单词上。此外,在选择答案时,排除自己的意见及主观想法是非常重要的。答案就在原文中,因而,文章内容中没有出现的,原则上请不要选择。

另外,再向大家推荐一个减少失误的方法,即不要急着选正确的答案,先将不正确的以及原文中没有涉及的选项排除。出题者在正确答案之外,还设置了混淆项以加大问题难度,因而,如果一开始便选择正确答案,很有可能会选择混淆项。

读解题即使一次性做很多,也不会有效果,因此,请以一天练习一回的进程来练习。

二、语法部分

语法部分为书中的第二至第四部分,其中第二部分为助词语法,第三部分为按照功能分类的助动词语法,第二、第三部分为基本练习,第四部分为语法综合练习。

另外,1 级考试中,很大程度涉及了 2 级语法项目(约 40%),所以在第四部分综合练习中,先安排复习 2 级语法再转向 1 级。

另外,在解答语法试题时,以下三点尤为重要:

1. 把握句子脉络。
2. 注意句型的接续形式。
3. 理解句型的意义功能。

考试时,请大家尤其注意各句型与名词、形容动词的接续形式。本书中,在与名词、形容动词的接续上,记载如下:

普<ナ形-な N-の>

普<ナ形-X N-X>

普<ナ形-な N-X>

还有,构成<ます形><ない形>时,「ます」「ない」为动词后续<ます><ない>的符号。

希望大家充分利用此书。

目黒真实

目 次

一部 1 級読解

第 1 回	3
第 2 回	11
第 3 回	19
第 4 回	27
第 5 回	35
第 6 回	43
第 7 回	51
第 8 回	59
第 9 回	67
第 10 回	75
第 11 回	83
第 12 回	91

二部 助詞文型の整理

1 格助詞	101
2 副助詞(主題・例示)	103
3 副助詞(限定・非限定・付加)	105
4 副助詞(程度・強調)	107
5 副助詞(列挙・反復)	109
6 副助詞(比較・選択その他)	111
7 接続助詞(時)	113
8 接続助詞(同時・並行)	115
9 接続助詞(様子・状態)	117
10 接続助詞(理由・目的)	119
11 接続助詞(条件)	121
12 接続助詞(逆接)	123
13 接尾語・接頭語	125

三部 助動詞文型の整理

1 助動詞(意志・義務・不必要)	129
2 助動詞(断定・婉曲・感情)	131
3 助動詞(可能・難易・程度)	133
4 助動詞(状態・傾向・その他)	135

四部 文法総合問題

2 級文法総合問題(第 1 回)	139
------------------------	-----

2 級文法総合問題（第 2 回）	143
2 級文法総合問題（第 3 回）	147
1 級文法総合問題（第 1 回）	151
1 級文法総合問題（第 2 回）	155
1 級文法総合問題（第 3 回）	159
1 級文法総合問題（第 4 回）	163
1 級文法総合問題（第 5 回）	167
資料 1 2 級文法出題基準	171
資料 2 動詞の敬語形と謙譲形	184
資料 3 敬語動詞一覧表	185
文法索引	187
別冊解答	195

一部

1 級 読 解

第1回

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。答えは、1、2、3、4から最も適当なものを一つ選びなさい。

木を構成する細胞の一つひとつは、寒いところでは寒さに耐えるように、雨の多いところでは湿気に強いように、微妙な仕組みにつくられている。あの小さな細胞の中には、人間の知恵のはるかに及ばない神秘が潜んでいるとみるべきであろう。それを剥いだり切ったり、くっつけたりするだけで、①神のつくった微妙な構造までもが改良されると考えたこと自体、近代科学への過信だったかも知れない。

木を取り扱ってしみじみ感ずることは、②木はどんな用途にもそのまま使える優れた材料であるが、その優秀性を数量的に証明することは困難だということである。なぜなら、強さとか保温性とかいったどの物理的・化学的性能を取り上げてみても、木はいずれも中位の成績で、最高位にはならないから優秀だと証明しにくい。

だがそれは抽出した項目について、一番上位のものを最優秀とみなす項目別のタテ割り評価法によったからである。いま見方を変えて、ヨコ割りの総合的な評価法をとれば、木はどの項目でも上下に偏りのない優れた材料ということになる。木綿も絹も同様に、(ア)割り評価法で見ると最優秀にはならないが、「③ふうあい」までも含めた繊維の総合性で判断すると、こんな優れた繊維はないということは、専門家の誰もが肌を通して感じていることである。総じて生物系の材料というものは、そういう特性を持つもののである。

以上に述べたことは、人間の評価法の難しさに通ずるものがある。二、三のタテ割りの試験科目の成績だけで判断することは危険だという意味である。(③)今の社会は(イ)割りの軸で切った上位の人たちが指導的地位を占めている。だが実際に世の中を動かしているのは、各軸ごとの成績は中位でも、④バランスのとれた名もなき人たちではないか。頭のいい人ももちろん大事だが、バランスのとれた人もまた、社会構成上欠くことのできない要素である。だが今までの評価法では、そういう人たちの価値は評価できない。思うに生物はきわめて複雑な構造を持つものだから、タテ割りだけで評価することには無理があるのである。

^④科学技術の急速な進歩で、私たちはすべての対象を物理的・化学的に分析すれば、それで
^(注4)事は足りると考えてきた嫌いがあった。だが生命を持ったものは、たとえ木のような素朴な
材料であっても、無機質のものとは違うもう一つの神秘的次元を持っているのである。^⑤いま
私たちにとって大切なことは、物から人に視点を移して、発想の転換をはかることであろう。

木はそのことを黙って教えてくれているように、私は思う。

(小原二郎「木の文化をさぐる」より)

(注1) ふうあい：繊維や髪などの、手触った感触や見た味わい。

(注2) 肌を通して：自らの体験を通して。

(注3) バランスを取る：均衡を取る。

(注4) 事は足りる：不足しないですむ。十分用が足りる。

問1 ①「神の作った微妙な構造」とあるが、それは具体的にはどんなことを指すか。

- 1 木も人も同じように複雑な細胞の組み合わせから作られていること。
- 2 木の細胞が寒いところでは寒さに耐えるように、雨の多いところでは湿気に強いように作られていること。
- 3 小さな細胞の中に人間の知恵のはるかに及ばない神秘が潜んでいること。
- 4 木がどんな用途にもそのまま使える特質を備えていること。

問2 ②「木はどんな用途にも……、その優秀性を数量的に証明することは困難だ」

とあるが、どうすれば木の持つ優秀さを知ることができるか。

- 1 物理的・化学的な分析
- 2 各項目の平均値からの分析
- 3 項目別のタテ割りの評価
- 4 ヨコ割りの総合的な評価

問3 ア、イに入る語の適当な組み合わせはどれか。

- 1 ア：タテ イ：タテ
- 2 ア：タテ イ：ヨコ
- 3 ア：ヨコ イ：タテ
- 4 ア：ヨコ イ：ヨコ

問4 (③) に入る語はどれか。

- 1 てっきり
- 2 確かに
- 3 きっと
- 4 さすがに

問5 ④「科学技術の急速な進歩で、私たちはすべての対象を物理的・化学的に分析すれば、それで事は足りると考えてきた嫌いがあった」とあるが、それを一言で表す語はどれか。

- 1 細胞の微妙な仕組み
- 2 近代科学への過信
- 3 数量的な優秀性の証明
- 4 生物の持つ神秘的次元

問6 ⑤「いま私たちにとって大切なことは、物から人に視点を移して、発想の転換をはかることであろう」とあるが、筆者は何を言いたいのか。

- 1 近代科学の方法論では、木や生物系の材料の優れた特性は証明できない。
- 2 この社会では頭のいい人よりも、バランスが取れた人の方が大切だ。
- 3 人を二、三のタテ割りの試験科目の成績だけで判断する考えは改めるべきだ。
- 4 タテ割り評価法からヨコ割りの総合的な評価法へと、物事の見方を変えよう。

問題Ⅱ 次の(1)から(3)の文章を読んで、それぞれの問いに対する答えとして、最も適当なものを1、2、3、4から一つ選びなさい。

(1) 「学び」の^(注1)プロセスは、何らかの感情の動きを伴っている。たとえば、新しい事態を以前の「知識」で理解できないでいたときに誰かから説明を受け、なるほどそうだったのかと納得し、それを取り込んで新しい「知識」を自分の中につくるとき、その人は小さな感動という感情を体験するはずだ。自分で調べて発見して納得し、新しい「知識」を自前でつくりあげるときも、感情の大きな動きを体験する。「やったあー！」というのに似た感情だ。だから「学び」というのは、静的で冷たい心の働きではなく、動的で情的な、人間にとってとてもうれしい^{いとな}営みになるはずだ。

こう考えると、私たちは日常、絶えず「学び」を経験していることがわかる。ただ、「学び」にはある種の感動が伴うものであるということを踏まえると、「学び」にも浅い深いがあると考えたほうが適切だろう。「学び」が深いほど、感動が大きい。(①)「学び」が深ければ深いほど、心身に新しいものが付け加わる度合いが大きく、行動までもがそれによって変化することがある、ということもできる。

(汐見稔幸『「学び」の場はどこにあるのか』より)

(注1) プロセス：過程。経過。道程。

問1 (①)に入る適当な語はどれか。

- | | |
|--------|--------|
| 1 なるほど | 2 あるいは |
| 3 ところが | 4 それとも |

問2 筆者はどのようなときに、「深い学び」が行われると考えているか。

- 1 書物を通して新しい知識を得たとき。
- 2 人から説明を受けて、何かを理解したとき。
- 3 日常体験の体験を通して教訓を学んだとき。
- 4 自分で調べて、何かを発見して納得したとき。

(2) 現在では「ものづくり」というと、需要が期待できる新製品を大量生産することを即座にイメージしがちである。しかし、工業製品の場合も、需要を呼び起こすのは、ずばり製品にまで具体化された新機能そのものというより、それがもたらす画期的な利便性、新しいライフ・スタイル、あるいは魅惑の世界にほかならない。「ものづくり」の神髄は、^{しんずい}クリエイティブな見方と、それがもつ可能性を見事に実現する技であり、音楽、文学、映画、その他の作品も、この点ではやはり「ものづくり」の成果である。

科学者がつくるもの、すなわち理論は、職人や芸術家がつくる作品に相当する。本格派の科学者に共通するのは、ものごとのクリエイティブな見方と、それを利用可能な理論にまで仕上げる^{にゅうなん}入念な技にほかならない。今までとは少し違った「ものの見方」から、従来の常識をより豊かにする方向へ、つまり従来の常識を覆して終わるのではなく、広い意味で新しい「ものづくり」の方向へと向かった人々の歩みこそが、科学の歴史にほかならない。しかも、^{いっかぎ}①そのきっかけになる驚きや理解の修正は、昔も今も難しい書物のなかにではなく、誰もが普段から経験していることのなかに満ち溢れている。より正確に言うと、それらは人と人との交流のなかに、満ち溢れていることが分かる。

(瀬戸一夫「科学的思考とは何だろうか」より)

(注1) クリエイティブ：創造的な。

問1 ①「そのきっかけ」とあるが、「その」は何を指すか。

- 1 クリエイティブな見方
- 2 「ものをつくる」方向
- 3 利用可能な理論
- 4 人と人との交流

問2 筆者が言う「ものづくり」とは、どういう意味か。

- 1 需要が期待できる新製品を大量生産すること。
- 2 新機能を備えた製品を開発すること。
- 3 クリエイティブな見方を、誰もが利用可能な形にまで仕上げること。
- 4 画期的な利便性や新しいライフ・スタイルを生み出すこと。

(3) 土近く ^(注1)朝顔咲くや 今朝の秋 (虚子)

朝起きて、庭においてみると、(①) 夏のものとは思われないような涼風^{すずかぜ}が立ち、青い朝顔の花が露を含んでひっそりと咲いていた。どこかで低い声で虫も鳴いている。こんな季節の朝を表わしたのが、「今朝の秋」ということばである。(ア) この季語は、それだけ多くの俳人に愛されたということに違いない。(イ)

一般に日本人は、季節の盛りよりも、冬から春へとか、夏から秋へとか、移るその変わり目に着目する傾向があるようで、和歌にも「秋来ぬと 目にはさやかに ^(注2)見えねども風^(注3)の音にぞ ^(注4)驚かれぬる」と、知らないうちに忍びこんだ秋をうたったものが多い。(ウ) 過ぎ去ってゆく季節に対する愛惜の情と、新しく迎える季節に対するほのかな^(注5)な期待が、四季の変化の激しい風土に住む日本人に、すぐれた和歌や俳句の作品を作らせたと言っている。(エ)

(金田一春彦著『ことばの歳時記』より)

(注1) 朝顔：ヒルガオ科の蔓性一年草で、朝花を咲かせる。

(注2) さやかに：はっきりと。

(注3) 見えねども：見えないけれども。

(注4) 驚かれぬる：驚かされる。

(注5) ほのか：光・色・香りなどがわずかに感じられるさま。

問1 (①) に入る語はどれか。

- | | |
|---------|--------|
| 1 やがて | 2 かえって |
| 3 けっきょく | 4 もはや |

問2 『「歳時記」を開いてみると、この季語を使った俳句が随分たくさん載っている。』という文は、ア～エのどこに入るか。

- | | |
|-----|-----|
| 1 ア | 2 イ |
| 3 ウ | 4 エ |